

軍事的緊張の高まりも

韓国で保守と革新勢力の政争は北朝鮮との南北対立になぞらえて「南南葛藤」と呼ばれる。朴正熙政権以降の慶尚道と全羅道の地域感情を伴う確執に根ざしており、国内政治では対北朝鮮政策に保守の違いが端的に表れる。5年ぶりに保守政権が返り咲き、日米韓の安全保障面の連携には追い風となる。

尹錫悦氏は米韓の合同軍事演習や日本も交えた安保協力を重視し、これに反発する北朝鮮との間で軍事的な緊張が高まる可能性がある。中国にも厳しく臨んだ場合、習近平政権が再び報復にでかねない。もっとも文在寅政権下でも北朝鮮は核・ミサイル開発を進め、中国は韓国への嫌がらせをやめなかった。国内では議会多数派の革新勢力による激しい抵抗も予想されるだけに、日米韓は結束し、成果を示すのが重要だ。（編集委員 峯岸博）